

第41回カラーコーディネーター検定試験1級第1分野

| 級 | | 合計 | 設問1 | 設問2 | 設問3 | 設問4 | 設問5 | 設問6 | 設問7 | 設問8 | 設問9 | 設問10 |
|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 第1分野 | 配点 | 100 | 10 | 10 | 5 | 10 | 10 | 5 | 10 | 5 | 10 | 25 |
| | 平均点 | 64.2 | 7.8 | 8.5 | 3.6 | 7.6 | 6.5 | 4.4 | 7 | 3.5 | 5 | 10.3 |

| 設問 | 設問 | 解答 |
|-----|----|----|
| 1-1 | ア | 2 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 2 |
| | オ | 1 |
| 1-2 | ア | 1 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 4 |
| | エ | 1 |
| | オ | 1 |
| 2-1 | ア | 3 |
| | イ | 2 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 3 |
| | オ | 1 |
| 2-2 | ア | 4 |
| | イ | 1 |
| | ウ | 4 |
| | エ | 2 |
| | オ | 2 |
| 3 | ア | 2 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 3 |
| | エ | 4 |
| | オ | 4 |
| 4-1 | ア | 2 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 4 |
| | オ | 2 |
| 4-2 | ア | 3 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 2 |
| | オ | 4 |

| 設問 | 設問 | 解答 |
|-----|----|----|
| 5-1 | ア | 3 |
| | イ | 2 |
| | ウ | 4 |
| | エ | 3 |
| | オ | 1 |
| | | |
| 5-2 | ア | 4 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 2 |
| | オ | 3 |
| 6 | ア | 2 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 4 |
| | エ | 1 |
| | オ | 2 |
| 7-1 | ア | 3 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 3 |
| | オ | 2 |
| 7-2 | ア | 3 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 1 |
| | オ | 3 |
| 8 | ア | 1 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 4 |
| | オ | 3 |

第41回カラーコーディネーター検定試験1級第2分野

| 級 | | 合計 | 設問1 | 設問2 | 設問3 | 設問4 | 設問5 | 設問6 | 設問7 | 設問8 | 設問9 | 設問10 |
|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 第2分野 | 配点 | 100 | 10 | 10 | 5 | 10 | 10 | 5 | 10 | 5 | 10 | 25 |
| | 平均点 | 61.5 | 7.7 | 7.9 | 2.7 | 6 | 5.9 | 3.7 | 6.4 | 3.5 | 4.8 | 12.8 |

| 設問 | 設問 | 解答 |
|-----|----|----|
| 1-1 | ア | 3 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 3 |
| | エ | 1 |
| | オ | 2 |
| 1-2 | ア | 3 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 3 |
| | オ | 1 |
| 2-1 | ア | 11 |
| | イ | 8 |
| | ウ | 12 |
| | エ | 9 |
| | オ | 1 |
| 2-2 | ア | 1 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 3 |
| | エ | 9 |
| | オ | 15 |
| 3 | ア | 2 |
| | イ | 1 |
| | ウ | 3 |
| | エ | 2 |
| | オ | 4 |
| 4-1 | ア | 1 |
| | イ | 5 |
| | ウ | 11 |
| | エ | 15 |
| | オ | 7 |
| 4-2 | ア | 3 |
| | イ | 1 |
| | ウ | 3 |
| | エ | 4 |
| | オ | 2 |

| 設問 | 設問 | 解答 |
|-----|----|----|
| 5-1 | ア | 3 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 4 |
| | オ | 1 |
| 5-2 | ア | 3 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 4 |
| | オ | 3 |
| 6 | ア | 11 |
| | イ | 8 |
| | ウ | 7 |
| | エ | 4 |
| | オ | 12 |
| 7-1 | ア | 7 |
| | イ | 8 |
| | ウ | 12 |
| | エ | 11 |
| | オ | 15 |
| 7-2 | ア | 3 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 4 |
| | オ | 1 |
| 8 | ア | 1 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 4 |
| | オ | 3 |

第41回カラーコーディネーター検定試験1級第3分野

| 級 | | 合計 | 設問1 | 設問2 | 設問3 | 設問4 | 設問5 | 設問6 | 設問7 | 設問8 | 設問9 | 設問10 |
|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|
| 第3分野 | 配点 | 100 | 10 | 10 | 5 | 10 | 10 | 5 | 10 | 5 | 10 | 25 |
| | 平均点 | 51.1 | 4.5 | 4.3 | 2 | 6.7 | 6.1 | 3.6 | 4.7 | 3.1 | 3.8 | 12.3 |

| 設問 | 設問 | 解答 |
|-----|----|----|
| 1-1 | ア | 3 |
| | イ | 5 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 1 |
| | オ | 4 |
| 1-2 | ア | 4 |
| | イ | 2 |
| | ウ | 5 |
| | エ | 4 |
| | オ | 3 |
| 2-1 | ア | 13 |
| | イ | 6 |
| | ウ | 11 |
| | エ | 1 |
| | オ | 9 |
| 2-2 | ア | 4 |
| | イ | 5 |
| | ウ | 14 |
| | エ | 6 |
| | オ | 11 |
| 3 | ア | 4 |
| | イ | 8 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 12 |
| | オ | 7 |
| 4-1 | ア | 2 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 2 |
| | オ | 4 |
| 4-2 | ア | 4 |
| | イ | 14 |
| | ウ | 10 |
| | エ | 9 |
| | オ | 1 |

| 設問 | 設問 | 解答 |
|-----|----|----|
| 5-1 | ア | 2 |
| | イ | 7 |
| | ウ | 11 |
| | エ | 3 |
| | オ | 4 |
| 5-2 | ア | 1 |
| | イ | 2 |
| | ウ | 4 |
| | エ | 3 |
| | オ | 3 |
| 6 | ア | 4 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 1 |
| | エ | 3 |
| | オ | 2 |
| 7-1 | ア | 11 |
| | イ | 1 |
| | ウ | 13 |
| | エ | 3 |
| | オ | 8 |
| 7-2 | ア | 1 |
| | イ | 3 |
| | ウ | 13 |
| | エ | 8 |
| | オ | 11 |
| 8 | ア | 1 |
| | イ | 4 |
| | ウ | 2 |
| | エ | 4 |
| | オ | 3 |

【第9問】1級（第1分野～第3分野）共通論述問題採点基準

【問題】（200文字以内）

色を正確に伝える方法にはいくつかありますが、その中から1つの方法を選び、その方法を利点または欠点を含め説明しなさい。

【模範解答例】

○回答例①XYZ三刺激値で伝える方法

色を正確に伝えるには、XYZ三刺激値で伝える方法がある。三刺激値を求めるには、伝えたい試料の分光反射率（又は透過率）を測定し、観察者の特性である等色関数の値と、試料を照明する光源の特性（一般的には標準イルミナントD65）の値を使って計算される。

利点としては、非常に精度よく色が伝えられることである。さらに、この三刺激値から知覚的な均等性を表す、 $L^*a^*b^*$ に変化することができる。（190文字）

○回答例②マンセルシステムの三属性で伝える方法

色を正確に伝えるには、マンセルシステムの三属性で伝える方法がある。色相、明度、彩度の三属性で色を表す方法である。色相は基本色相と中間色相の10色相で表す、明度は白と黒の間を10段階に知覚的に等間隔になるように分割されている。彩度は同じ明度の無彩色からの隔たりの程度である。三属性を求めるのは、三属性が明記されている標準色票と視感比色方法で求める。この方法の利点は視覚的に均等性が保証されている。（197文字）

○回答例③色見本で伝える方法

色を正確に伝えるには、色見本で伝える方法がある。環境色彩関連で使用される塗料用標準色で説明をする。塗料用標準色は実際の塗料で調色して、塗布して作られた色票である。基本的にマンセルシステムをベースとしている。無彩色は発行年度記号、無彩色記号、明度区分が表記されている。有彩色は発行年度記号、色相区分、明度区分、彩度区分が期されてある。この分野で非常に多く使用され、色の伝達には便利である。（193文字）

○回答例④色名で伝える方法

色を正確に伝えるには、系統色名で伝える方法がある。系統色名はJIS Z 8102に規定された方法の一つで、色名を三属性に相当する色相、明度、彩度の言葉と修飾語で色を伝える方法である。有彩色は基本色名と色相に関する修飾語、明度および彩度に関する修飾語で表し、無彩色は基本色名と明度に関する修飾語で表す。350色名が表示できるが、これでは不十分とする考えがあるが、比較的使いやすい方法である。（192文字）

○回答例⑤CMYで伝える方法

色を正確に伝えるには、CMYで伝える方法がある。CMYとはプロセス印刷でのシアン、マゼンタ、イエローインキの単位面積あたりに占めるインキの割合を示す網点面積率の値（%）である。このCMYの値が同じでもインキと紙の種類で印刷された色が異なる。そのため、プロセスインキの標準化が行われ、紙とインキの標準としてジャパンカラーが定められているので、これに従った印刷条件が色の伝達には不可欠である。（194文字）

○回答例⑥RGBで伝える方法

色を正確に伝えるには、RGBで伝える方法がある。RGBはカラーディスプレイの赤・緑・青の原色の信号値である。この信号値は量子化された値であり、発光比率とは非線形の関係であるので、3つの原色の三刺激値からの線形式で色が求められない。このRGBで伝える方法の欠点は、ディスプレイの方式により原色が異なることである。これを解決したのが、sRGBで、最大の発光がD65になるように設定されている。（194文字）

【第10問】 1級（第1分野）論述問題採点基準

【問題】（500文字以内）

マーチャンダイズ・プレゼンテーション（MP）は図1～3に代表されるビジュアル・プレゼンテーション（VP）、ポイント・オブ・セールス・プレゼンテーション（PP）、アイテム・プレゼンテーション（IP）から構成されている。VP、PP、IPの各プレゼンテーションの役割と目的、原則について述べよ。

【模範解答例】

VPは店舗や売り場を訪れた顧客が最初に目にする場であるため、店舗イメージの蓄積、確立を行い、顧客の注意を引くことで店内に誘導することが目的である。顧客に伝えたいメッセージを表現したファッションステートメントに基づき、3色以内に絞り込んだトータルコーディネートで「魅せる」演出表現を行う。

PPは売り場の目立つ場所において、VPと連動した陳列を行い、それを常に変化させることで店舗イメージを確立させ、コーディネートや関連商品を陳列することにより購入商品数を増やすことが目的である。売場の顔となる商品やIPで展開する商品を用い、複数の商品をコーディネートして、二体以上の什器で陳列する。

IPは最終的に購入する場所であるため、商品进行分类、整理して陳列することにより、顧客の購買チャンスや関連商品購入を増やし、売り上げや利益を伸ばすことが目的である。商品をより多くの目にふれさせるため、フェイスアウト、フォーカルポイントの演出、サーキュレーションといった売り場レイアウトの工夫が不可欠となる。その原則として、フェイス設計、カラーライゼーション、サイジングの各原則があり、これらに従って陳列する。

（495文字）

【評価のポイント】

VP、PP、IPが区別され、その役割と目的、原則が明確に説明されていること、また、これらが連携することでマーチャンダイズ・プレゼンテーション（MP）が形成される、といった内容が述べられていることが評価のポイントである。以下に配点と重点加点項目を示す。

本問題は、テキスト第9章 第3節から出題されており、代表例の写真も示されていることから、テキストの当該部分を理解していれば解答できる問題である。

(1) VPの役割と目的、原則・・・小計6点

<重点加点項目>

役割と目的：最初に目にする場、店舗イメージの蓄積・確立、店内に誘導

原則：ファッションステートメントに基づく、3色以内、トータルコーディネート

※場（ショーウィンドー等）やツール（マネキン等）に関する記載も加点対象とした。

(2) PPの役割と目的、原則・・・小計6点

<重点加点項目>

役割と目的 : 売り場の目立つ場所、マグネットポイント、VP（ファッションステートメント）と連動した陳列、店舗イメージの確立、コーディネートや関連商品の陳列、購入商品数を増やす

原則 : 売場の顔となる商品、IPで展開する商品、売り筋商品、複数の商品をコーディネート、二体以上の什器

※場（柱巻き、壁面など）やツール（ボディ等）に関する記載も加点対象とした。

(3) IPの役割と目的、原則・・・小計8点

<重点加点項目>

役割と目的 : 最終的に購買する場所、商品进行分类・整理して陳列、顧客の購買チャンスを増やす、関連商品購入を増やす、売り上げや利益を伸ばす

原則 : フェイスアウト、フォーカルポイントの演出、サーキュレーション、フェイス設計の原則、カラーライゼーションの原則、サイジングの原則

※ツール（ハンガーラック等）、各原則の詳細、照明の色温度や照度に関する記載も加点対象とした。

(4) 全体のまとめ・・・小計5点

<重点加点項目>

VP、PP、IPの連携など全体的な考察、文章全体としてのまとまりや論旨の一貫性を総合的に評価。

※テキストに記載がない内容であっても、正しく、論理性がある記載に関しては加点を行った。

ただし、誤った記載や個人の主観的な意見、感想に対しては加点を行わなかった。

【問題】（500文字以内）

商品のカラーには流行があり、カラーポピュラリティは時代により変化する。商品色彩の流行とは何か、時代により売れる色に変化する要因、時代変化を適切にとらえる手法などを考慮しながら、あえて流行あるいはトレンドに背を向けたカラーデザインやカラー施策を行って成功した商品の例をあげ、あなたの意見も交えながら解説しなさい。

【解説】

この問題は、後半の「あえて流行あるいはトレンドに背を向けたカラーデザインやカラー施策を行って成功した商品の例をあげ、あなたの意見も交えながら解説しなさい」という部分が重要である。そこで、この条件に該当する商品事例を軸として、「①商品色彩の流行とは何か、②時代により売れる色に変化する要因、③時代変化を適切にとらえる手法など」を適宜織り込みながら解説するというのが、素直な構成となる。

「あえて流行あるいはトレンドに背を向けたカラーデザインやカラー施策」というのは、大きく分けて2通りの考え方がある。一つは、「流行している色、あるいはトレンドと言われている色は〇〇だが、それとは違う色を市場に提案し、受け入れられた」というものである。もう一つは、「流行やトレンドは追わず、作り手側のコンセプトに従って、変わらない色を提供し受け入れられた」というものである。適切な商品事例をとりあげて、正しく解説されていればどちらでもOKである。

第5章の商品色彩の説明の中に、自動車、家電、オフィス、雑貨等の歴史の解説があり、各時代に流行した商品色彩が説明されている。論述ではそれらの流れに一石を投じた商品色彩や流れを変えた商品色彩の事例を挙げて、正しく解説されていれば良い。

過去に流行したことの無い色や質感の商品を、敢えて提案して成功した事例はテキストにも載っているし、それ以外の商品でも枚挙に遑がない。

論述に織り込んでいく項目としては、テキストの記述の中では以下のような部分が参考になる。とりあげた商品事例により、関連性のある項目を応用して論述すると良い。

①商品色彩の流行とは何か？

1級テキストの47頁によると、流行とは「ある一定の時期に社会的に認められているが、いずれ変わることが期待されている集合行動の一形態である」と定義される。2級テキストではさらに詳しく11頁にわたって解説されている。広辞苑では「急に出現する現象が世間一般にゆきわたり広がること」とある。

商品色彩では、その商品の色として従来の平均量より目立って多くなった場合、流行ということができる。「急に」という点はあまり重要ではなく、徐々に増加し、量的にメジャーとなり、やがて衰退、あるいは定着するものも流行としてとらえられる。

②時代により売れる色に変化する要因

1級テキスト180頁の説明では、a) 心理的要因：コンフォーミティ（適合、同調化要因）、プレステイジ（威光、孤立化要因）、アンビバレンス（両価性） b) 時代の意識、気分（顧客が求めるイメージ）、生活・価値観の変化 c)トレンド情報など各種のプロモーションの影響 d) 対象商品以外の商品色の影響 e)材料技術・生

産技術の変化の影響（表現可能な色域の拡大など） f) スタイルデザインの変化 g) 競合商品同士の相互影響や、先行指標となる商品の影響 h) その商品の市場成熟度 とある。a の心理的要因については、2級テキストの177～178頁に解説されている。これらのうち、解答者がとりあげた商品と関連のある項目がいくつか書けていればOK。

なお、景気との相関や変化の規則性については、第2分野のテキストでは否定的である。JAFCAのデータや自動車の色域別販売台数を見ても、景気との明確な相関や周期などの規則性は立証されていない。このテキストでは、「商品のカラーポピュラリティは、複数の要因が影響し合って変化するので、基本的には規則性がない」という考え方を採用している。

③時代変化を適切にとらえるための方法

1級テキスト184頁～192頁を中心として、情報収集の方法が説明されているが、その中で、時代変化を正しくとらえるために何をすべきかをとということが適切に説明されていることが重要である。とりあげた商品のカラーデザインが成功したのは、どのようにして時代変化をとらえたからか、ということが述べられると説得力がある。

単一の情報だけでは、商品色彩に関する意志決定は不可能である。多くの情報を適切に組み合わせてはじめて正しい決定に近づく。カラーコーディネーターの眼で、世の中(市場)でおこっている事実をよく見ることが最も大切である。流行の変化は不規則だが秩序があるので、過去の実績変化をベースに、各々の影響因子を調査分析し、連結・推測することにより、ある程度のトレンドは予測できる。

【第10問】 1級（第3分野）論述問題採点基準

【問題】（500文字以内）

下図の建物立面に配色すべき色彩を「商工会議所カラーコーディネーション・チャート285（CCIC）」から選定し、その考え方を論述しなさい。建物は工場に併設する社員寮で国内の山間部（盆地）に位置する。色彩は2色、立面全体に配色する基本色①と、階高ごとにあるボーダー②と窓枠③を同じアクセント色として配色するものとする。なお、選定色2色の色記号をチャート285から指定し、解答用紙の文頭に明記すること。

【模範解答例】

配色： A 基本色 oPY2、B アクセント色 lgY1

対象の建物は古い宿場町が発展した小さな市の郊外にあり、中心部は伝建地区に指定されている。周辺は農地が広がり、四方は500m程度の山々に囲まれている。

主要視点場の設定。①峠越えの国道から盆地を見渡す景観の中に対象建物が存在する視点場。②盆地中央のバイパス道路から伝建地区と対象建物が並んで見える視点場。③は伝建地区の路地景観に対象建物の一部が見える視点場。

以上の設定から、配色の主な狙いは、山と農地の自然景観に歴史的な町並が存在する地域固有の景観を美しく見せることを意図した配色とした。

基本色は①の視点場から見える自然や農地の色彩を主にとらえ、それらと対比的な関係にならない低明彩度系の配色を選定した。また②③の視点場から、歴史的建造物を構成する木材や土壁色に近いイエロー系の色相とし、建造物と一体的に見えるように配慮した。アクセント色は③の視点場で初めて対象建物と他を区別する程度とし、基本色と同系で彩度と明度を上げた色彩を選定した。（417文字）

【評価のポイント】

評価①明確な現場設定がある。

○盆地の規模

平地部の広さ、周辺の山の高さなどの具体的な設定を行っている。国内の盆地は県庁所在地が存在する大きな盆地から、集落が存在する小さな盆地まで設定が可能、また山々も日本アルプス級から数十メートル級まで設定可能。

○施設位置

街、道路、周囲の山々と、建物の位置関係が明確に示されている。

評価②主要な視点場が明確に示されている。

道路上からの視点場（移動視点の場合もあり）。周辺の山道、峠道や展望所から俯瞰する視点場、周辺の商業地、耕作地、住宅地、学校などからの視点場が示されている。

評価③隣接景観要素、背景となる景観要素が明確である。

例えば、道路上の視点場から見て大型商業施設と並んで存在し、背景の山は遠く、かつ対象の建物よりも低く存在している。俯瞰の視点場からは、道路に面した部分以外は耕地に囲まれているなど。

評価④配色の考え方と色彩が明確に示されている。

ケースA：景観条例、色彩ガイドライン他、ルールに則って配色を決める。

ルールの存在理由と配色の考え方を想定し、ルールで使用できる色彩を選択するというプロセスに則っている。選択された基本色、アクセント色が一般的な色彩ガイドラインに準じている。

ケースB：ルールなどが無い設定で、周囲との関係から配色を決める。

視点場から見える周辺景観と建物規模との関係や建物の性質の表現など、配色の考え方が明確に示されている。その考えを基に基本色、アクセント色が的確に示されている。

評価⑤配色の考え方の中に調和や対比の考え方が示されている。

周辺や地域のどんな色彩と調和（類似、色相、トーンなど）させるのか、または対比（明度、色相、彩度など）させるのかなどの考え方がある。基本色とアクセント色の役割を理解し、相応の色彩を選択している。

評価⑥配色の考え方の中に地域性や地区特性との協調関係をつくることが示されている。

特色のある景観づくりのために、地域、地区などの固有色を配色する。

個性的で良好な色彩景観をつくることの重要性を理解している。

以 上